

宮津市廃棄物減量等推進審議会 会議記録

日 時：令和4年6月6日(月) 午前10時00分から11時45分まで

場 所：宮津市福祉・教育総合プラザ 第1コミュニティルーム

出席者 ※敬称略

○委員（瀬戸享明、八尋慈教、黒岡芳子、中西幸子、矢野順子(リモート)、
笠井裕代、古橋由季、小畑晴美、谷口政史、小谷美穂(リモート)、
幾世健史、小西 均、山川 肇)

○オブザーバー（岩崎靖之(リモート)、片山禎彦、居村 真)

○事務局（城崎市長、今井副市長、山根部長、廣瀬課長、山本係長、井上主査)

欠席者 ※敬称略

○委員（松田高正、谷口知弘)

1 開会

2 市長あいさつ

3 委員委嘱

4 会長、副会長の選出 ※敬称略

会 長：山川 肇（京都府立大学）

副会長：八尋 慈教（宮津市自治連合協議会 副会長）

5 諮問

○資源循環型社会推進条例(仮称)の制定について

○資源循環型社会推進条例(仮称)制定後に策定する実施計画について

○宮津市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例の一部改正について

- ・ごみ減量化について(可燃ごみ(生ごみ)現状調査資源化研究、食品ロスの削減等)
- ・大型ごみ収集運搬について
- ・し尿くみ取り手数料について

6 資源循環検討部会及びし尿手数料検討部会の設置

別添「名簿」のとおり

7 議事

(1) ごみの減量・資源化促進事業～資源循環型社会への転換～について

- ・宮津市資源循環型社会推進条例(仮称)の制定について
- ・資源循環型社会推進条例(仮称)制定後に策定する実施計画について
- ・宮津市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例の一部改正について

(2) 意見交換

【浄化槽等について】

(主な意見)

- ・市町村別汚水処理人口普及率の比較では、宮津市は京丹後市と類似している。近隣の市町とどのように比較分析しているのか。
- ・浄化槽の普及率が増えないのは、設置できない理由があるのではないだろうか。
- ・個人からの浄化槽の設置を請け負っているが、実績はあまりない。

(事務局)

- ・本市の汚水処理人口普及率は、下水道整備区域内の人口と浄化槽設置世帯人口で普及率を示す。したがって、浄化槽区域が多く、設置世帯が少ない場合、比較的低い率となる。
- ・浄化槽未設置は、高齢者世帯が多く、水洗化への投資に積極的ではない。また、一部には流す水路がない人や、自分の敷地だけでは設置できない人など浄化槽を設置したくても出来ない人もいる。

【食品ロスについて】

(主な意見)

- ・ホテル業において、バイキング営業での食品ロスが気になっている。衛生面で踏みこめない部分もある。他の事業所で参考になるものがあればお聞きしたい。
- ・どこかで「食事を残したら 500 円頂きます」というメッセージを見たことがある。
- ・小皿料理にすると食品ロス削減に効果がある。自己責任で持ち帰りもしていただいている。
- ・旅館からカニ殻・カキ殻が多く出る。カニ殻を肥料にすることも以前やっていた。カニ殻を肥料に、カキ殻を建築資材にするなどの循環型のシステムが構築できないだろうか。
- ・バイキングで残った食材は、社員食堂に持って行って利用している。以前は食べきれないほどの会席料理を提供してきたが、今はそうでもない。
- ・スーパーなどで節分の巻き寿司が大量に販売されて売れ残りが多くあるのを目にする。また、コンビニで学生アルバイトが廃棄する期限切れ商品を持ち帰り、解雇されたと聞いたことがある。
- ・特別養護老人ホームの入所者は、その日の体調等により食事の食べ残しなどがある。
- ・学校給食を担当している。食材等は、学校の栄養管理士が献立を立てている。食べ残しを少なくするようにしている。

(オブザーバー)

- ・京都府丹後保健所としては、食品衛生の規制を所管。食品ロスの観点からはゴミが出ない取組は良いが、衛生的な観点も必要となる。コロナ対策もお願いしたいところ。

【ごみについて】

(主な意見)

- ・ゴミについて思うことは多い。宮津市は一般廃棄物が他市と比べて多い。なぜだろうか。

- ・容器包装などのゴミが多い。また無駄な物を買ってしまう。我々だけの努力だけでは、ゴミ量は減らないと思う。企業側にもゴミを減らすことをお願いしたい。
- ・高齢者には丁寧な周知が必要。
- ・ホテルの客室にゴミかごを増やすことで、お客様に分別のお願いをしている。歯ブラシなどのアメニティは、ロビーフロントに設置し、必要な分だけ持っていくようにしている。
- ・アメニティの使用量は、関東より関西は地域特性なのか、増加傾向にある。
- ・コロナ対策としてエアータオルからペーパータオルに変更した。ホテルのSDGsの取組として「15回手を振り（水切り）しましょう」を進めている。
- ・特別養護老人ホームから出るゴミで多いのは、使用後のオムツ。感染症予防対策としてペーパータオルで手を拭くため、そういった衛生ゴミも出る。
- ・高齢者施設として、ゴミの減量化にどう貢献できるか悩ましい。
- ・施設の周りには公園があり、草刈りなどのゴミが出る。植栽などで草刈りをする面積を減らす取組など少しずつ取り組んでいる。
- ・建設業からは、発泡スチロールのゴミが大量に出る。毎回、発泡スチロールのゴミを分別するのが大変。
- ・数字で見ると可燃ゴミが多いので、何とかしないといけないと考えている。プラゴミも多い。「出さない」、「リユース」が重要。行政側の強い姿勢が必要ではないか。
(事務局)
- ・観光客が多いので、ゴミも多い。令和元年度は近年観光客が多かった年度。ゴミを分別してもゴミの総量は減らない。

【ごみの分別について】

(主な意見)

- ・宮津市の分別は種類が多い。
- ・宮津市のゴミ分別について、特に高齢者はどの程度出来ているのか。
- ・大手の事業所は、分別を積極的にやってもらっていると思う。市民もしっかりやってもらっていると思う。ただし高齢者には分別が細かく出来る人と、出来ない人がいると思う。

(オブザーバー)

- ・1市2町で比べると、宮津市の資源ゴミの分別は、2町と比較して好ましくない状況。
- ・クリーンセンターは、発電用のメタンガス化施設がある。資源ゴミはリサイクル事業者へ引き渡すが、分別処理の徹底が非常に重要。資源ゴミの中にペットの糞などが入っている事例もある。

【環境意識について】

(主な意見)

- ・亀岡市ではレジ袋が廃止になり、レジ袋も売らないことになった。今は定着し、市民の意識改革はできている。
- ・ゴミ量を減らす市民の意識改革が必要であり、行政側からの強い指導がないと出来ないと思う。

- ・ゴミ量を減らすには、まだまだ地域への周知が必要で、市民の意識改革により、ゴミ量を減らすことは可能なのではないか。
- ・女性の会の会員には、食品を買い過ぎないように呼びかけている。
(オブザーバー)
- ・ペットボトルのケミカルリサイクル技術で貢献していきたい。観光客を巻き込んで周知していきたい。

【その他】

(主な意見)

- ・特別養護老人ホームでは、紙オムツは別に処分しているのか。メーカーは、紙オムツを再生利用する研究をしているようだ。
- ・阿蘇海のへどろから出来るゼオライトを使って生ゴミを肥料にすることをやっている。何かもっと良い取組にならないだろうか。
- ・紙オムツの取組は3年前から研究が進み、現在いろんな動きがある。
- ・家庭のゴミの減量には、冷蔵庫の食品ロスを減らすため各家庭の冷蔵庫の見える化がポイント。
- ・ゴミの減量化は、衛生面とのバランスが必要である。
- ・建設業からもゴミが出てくる。産業系ゴミだが削減に向け協力してやっていきたい。
- ・保健所とも一緒になって取組が出来れば。
- ・浄化槽の普及については、更にどういった方法が良いのか検討していきたい。

(3) その他(事務連絡)

- ・次回会議(初回の資源循環検討部会)は、6月下旬頃にリモート開催予定。

8 閉会